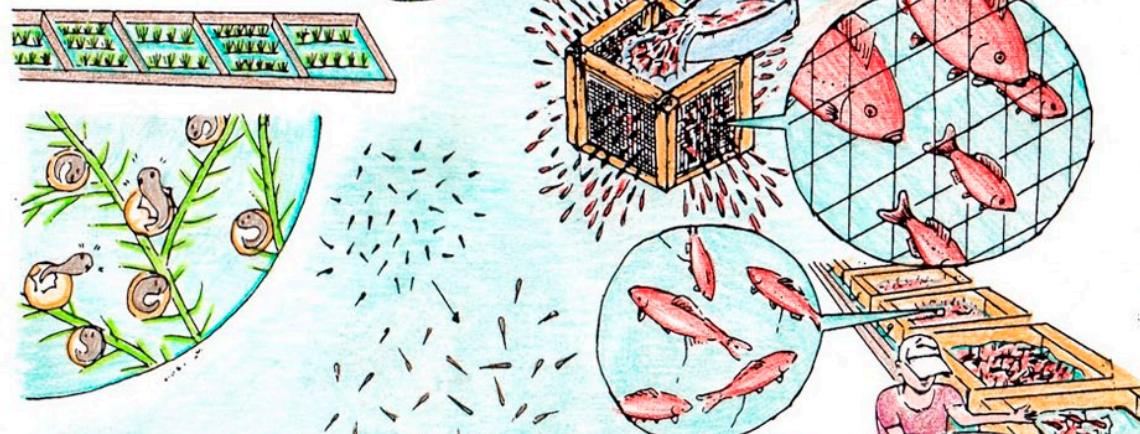


小赤(金魚すくいの金魚)の誕生から出荷まで

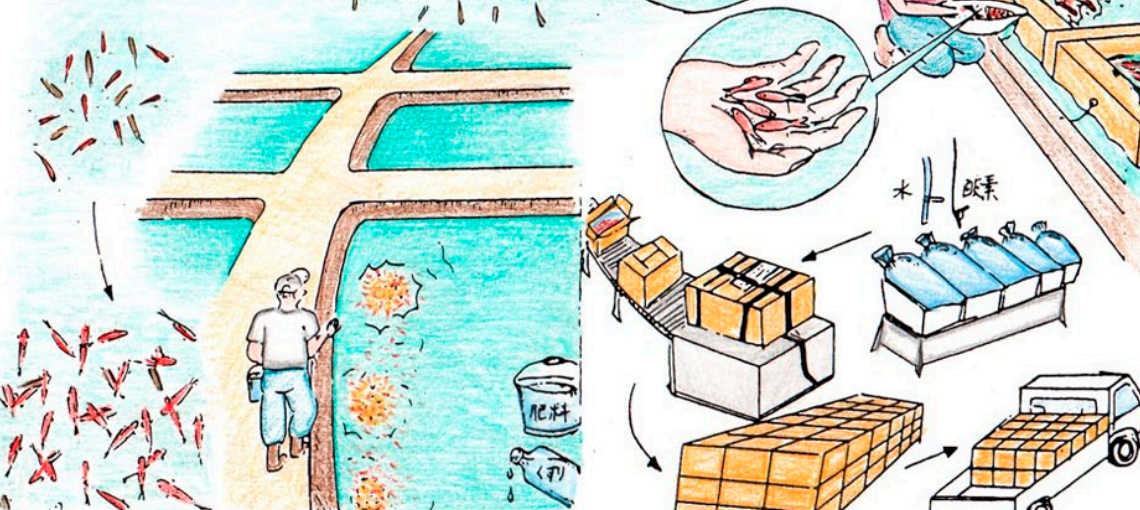
1 春になり、あたたかくなったら、あらかじめ卵を産ませるための親となる金魚をたくさん放した池に、束ねた水草などをつけておき、そこに卵を産ませます。産みつけられた卵は、そのままにしておくと、卵を産んだ親の金魚に食われてしまうので、水草ごと小さな池(たまたみ1~2枚分くらいの広さ)にうつします。



2 金魚は、早ければ3日~10日ほどで卵からかえります。卵からかえた赤ちんは、とても小さく、5羽くらいで、色はまだ赤くなく、黒っぽいフナ色をしています。生まれたばかりの金魚の赤ちんは、すぐには泳がず、3日くらいは、おなかにあるえいようの入った袋からえいようをとって少しだけ大きくなります。



3 少し大きくなった金魚の赤ちんは、エサをさかして泳ぎだします。そしてら次に、その赤ちんを、さいしょのエサとなるミジコとわかせた広い池(教室~運動場ほどの広さ)にうつします。そしてミジコを食べてくれたあとは、金魚のエサ(お店で売っているツブツブのエサをこなにしたようなもの)を毎朝与えて育てます。エサをやりはじめて、1週間くらいたつと、黒っぽい色から赤い色にかわってきて、大きさも2cmほどになります。そのあとは金魚の好む水にするため、肥料を入れたり、病気になるないように薬を入れたりして育てます。



4 池に入っている金魚をつかまえる時は、池に立てた竹す(竹で作ったすだれの網道具)のまん中にエサを入れておき、金魚がそのエサにつられて集まってくるまで1時間~3時間くらい待ちます。そして金魚が集まったところで、竹すをひいて、ちぢめていき、アミですくって、たらいなどで運びます。

5 池からとってきた金魚には、大・小、色々な大きさの金魚が混じっているので、おし(金アミでできた箱型の水に浮かぶ道具)を使って、大きさをより分けて、金魚すくい用の大きさ(3cmくらい)に育ったものから出荷します。早ければ4月に生まれて、6月頃には出荷できます。とおしからぬけた小さい金魚は、また元の池にとどめて育てます。

6 金魚すくいできる大きさに育った金魚は、お客様の注文に応じて、手で数をかぞえます。かぞえ方は、たらいなどに金魚と水を入れ、片手に5匹ずつのせてかぞえます。100匹の注文のときは5匹を1回として、20回、舟(金魚のフンが落ちるように底がアミでできていて、水に浮かぶように作られた道具)に入れるといった感じです。1度に数匹など、数の多い注文の時は、量を計って出荷する場合もあります。数をかぞえて舟に入れた金魚は、きれいな水に4時間以上泳がせて、フンをさせます。これは、金魚を送っている間にフンで袋の中の水が汚れて、金魚が弱るのを防ぐため、「魚じめ」と言われます。金魚を送る時は、注文はビニール袋に水と金魚を入れ、空気のかかりに酸素を充填させて袋の口をゴムでしっかりとくり、クッション箱に入れて、ひもを掛けて、宅配便で送ります。ふつう、金魚を送る時は、出荷した、次の日にお客様のところへ届くように送ります。